



『ファーマーズトーク in RUMOI』が開催され、 令和元年11月27日に41名が参加しました!!

留萌農業の時代を担う若者が一堂に会し、日ごろの実践活動で身につけた技術・経営改善の知識や農村生活・農村活性化などの情報交換を行うことで、将来の農業の担うたくましい経営者としての資質向上を目的に、羽幌町中央公民館で令和元年11月27日に、留萌管内4Hクラブ連絡協議会、留萌振興局（農務課・農業改良普及センター）主催で、令和元年度留萌管内青年農業者会議「ファーマーズトーク in RUMOI」が開催されました。

「ファーマーズトーク in RUMOI」には、留萌管内4Hクラブ連絡協議会を構成する「羽幌町ピンクファイブ」や「遠別町4Hクラブ」のほか、「小平町4Hクラブ」、初山別村や天塩町の青年農業者など、41人が参加しました。北海道指導農業士の木村茂さん、北海道農業士の大矢根まきさんと有野直倫さん、留萌振興局産業振興部 茅野地域産業担当部長、留萌農業改良普及センター 小澤所長の5人を助言者に、午前の部・午後の部合わせて、団体や個人から17題目の取組の報告・発表がされたほか、合間にはティーブレイクの時間も設けられました。



取組発表では、「遠別町4Hクラブ」は、町民農園に植えたヒマワリがきれいに咲いたことやポップコーン栽培を試みたこと、羽幌町の「YSK野菜組合」は、ハウスでジャガイモの「とうや」を栽培し6月中旬に収穫したことを発表しました。また、「羽幌町ピンクファイブ」は、ハロウィーンに合わせてジャンボカボチャを町内の商店や幼稚園などに配布し喜ばれたことを報告しました。個人の発表では、耕畜連携の取組、ハウスでの高収益作物栽培による通年雇用の取組などの発表があり、発表後は参加者から質問が出るなど、会場は活気に満ちていました。



ティーブレイクでは、参加者は遠別町の菓子「北海道こだわりおかき」など各町村の名産品に舌鼓を打ちながら、交流や情報交換をし、留萌管内の農業を考える濃密な1日を過ごしました。

